

は た

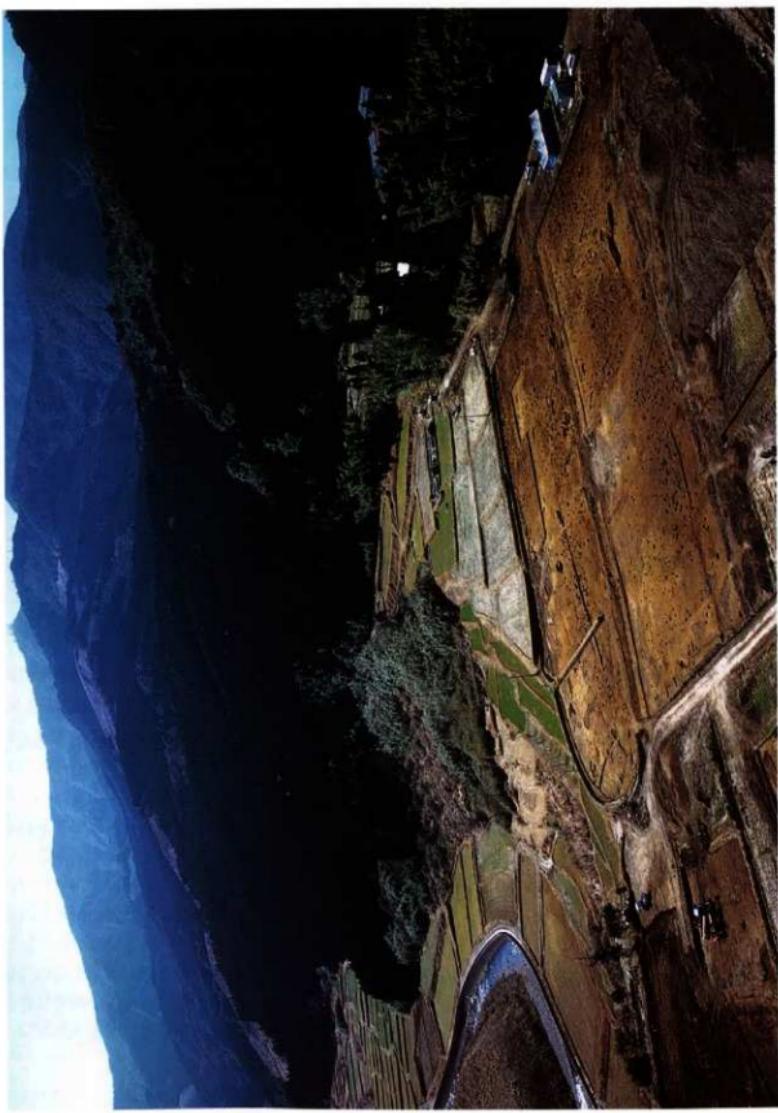
だ

# 畠 田 遺 跡

県営農地保全整備事業元野地区に伴う  
埋蔵文化財発掘調査概要報告書

1 9 9 9

宮崎県宮崎郡田野町教育委員会



畑田調査状況全景（北から）

## 例　　言

1. 本書は、平成10年度に実施した県営農地保全整備事業元野地区楠原工区内に所在する畠田遺跡の発掘調査概要を報告するものである。
2. 本遺跡の現地調査及び室内調査は、宮崎県中部農林振興局からの受託事業と文化庁の国庫補助事業を得て出野町教育委員会が実施した。調査体制は下記のとおりである。

調査主体	宮崎県宮崎郡田野町教育委員会		
調査組織	田野町教育委員会	教育長	堀内 侃
		社会教育課長	永谷 弘
		社会教育課長補佐	
		兼係長	川口 博文
埋蔵文化財担当	同主任	森田 浩史	
	同主任	金丸 武司	
調査及び調査事務担当	同主任	森田 浩史	

3. 現地における測量及び写真撮影等の記録作業については、株式会社パスクの支援業務を導入した。また、完掘状況の空中写真撮影は株式会社スカイサーベイならびに有限会社埋蔵文化財サポートシステムが行った。
4. 調査の一環として実施した<sup>14</sup>C年代測定、テフラ分析、樹種同定ほかの自然科学分析については株式会社古環境研究所に委託した。
5. 出土遺物のうち、特に陶磁器類については有限会社埋蔵文化財サポートシステムに図化を委託した。
6. 現地の作業員として、地元楠原地区の方々をはじめ多数の参加をいただいた。また、室内整理作業については、[ ] の補助を得た。
7. 本書の執筆及び編集は森田が行った。
8. 本書で用いた方位は磁北、標高は海拔絶対高である。
9. 本書の色調表示は、農林省農林水産技術会事務局監修の「標準土色板」を参考にした。
10. 本書における遺構の表示には、下記の記号を用いた。  
竪穴住居（S A）　　掘立柱建物（S B）　　土坑（S C）　　溝（S D）
11. 出土遺物は田野町教育委員会文化財調査事務局及び文化財収蔵庫に保管している。

## 本文目次

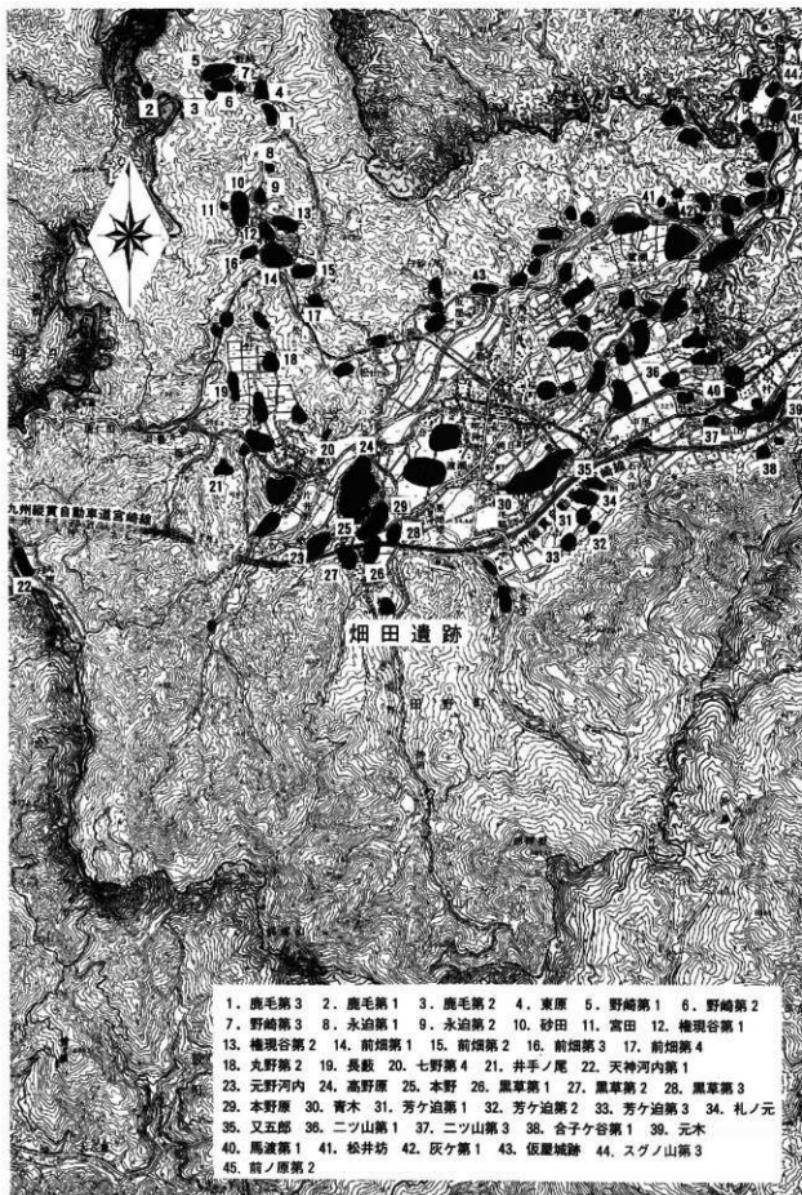
第Ⅰ章 はじめに .....	1
第1節 調査に至る経緯 .....	1
第2節 遺跡の立地と歴史的環境 .....	1
第Ⅱ章 畑田遺跡の調査 .....	3
第1節 調査の方法と結果の概要 .....	3

## 図版目次

第1図 町内主要遺跡分布図 .....	1
第2図 調査区位置図 .....	2
第3図 A区遺構分布図 .....	4
第4図 B区遺構分布図 .....	5 ~ 6
第5図 遺構実測図 .....	7
第6図 出土遺物実測図 .....	8

## 写真目次

畠田遺跡調査状況全景 .....	9
畠田遺跡調査着手前全景 .....	10
畠田遺跡調査状況全景 .....	11
A区調査状況全景 .....	12
A区遺構検出状況 (SD-03) (SC-07) .....	12
B区遺構検出状況 (SA-02) (SC-06) .....	13
B区遺構検出状況 (SB-03) (SB-15・16) .....	14
B区遺構検出状況 (SB-20) (SB-11・17) .....	15
B区遺構検出状況 (SD-03) (SD-21・22) .....	16
C区の調査状況 .....	17
B区の出土遺物 (縄文時代の土器) .....	18
A B C区の出土遺物 (縄文時代の土器・弥生時代の石器・平安時代の土器ほか) .....	19
B区の出土遺物 (中世・近世・近代の陶磁器) .....	20



第1図 町内主要遺跡分布図

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

田野町は宮崎市の西方約20kmの地点を中心とする田野盆地と、その周囲を取り囲むように立地する台地、更にこの台地を麓にもつ山地からなり、1市（宮崎市）5町（清武町、高岡町、山之口町、三股町、北郷町）と接している。これまで人根や葉煙草などの農産業を主産業としていたが、近年は工業団地の整備や専門学校の誘致、宅地開発などにより、徐々に変化・発展しつつある。その一方で農業基盤整備事業や各種の開発事業に伴う埋蔵文化財の保存が大きな問題となっており、町教育委員会でも調整や調査体制の整備・充実を図ってきた。しかし、これら開発事業の実施にあたって現状保存となる遺跡は皆無に近いのが現状であり、大部分は記録保存の対象として消滅している。また、開発事業側との調整が困難な状況に追い込まれるほどの大規模な調査を受託せざるをえない年度もあり、調査の運営方法を含めた体制の再検討も今後進めていかなければならない重要課題である。

平成10年度は県営畠地帯総合整備事業鹿野野地区が実施されることとなり、平成10年8月7日から現地の調査に着手したが、同地区は2工区に分かれており、いずれも1haを越える対象面積であったため、不十分ではあるが担当者を2名配置する必要があった。一方で、当初は中止の予定であった県営農地保全整備事業元野地区楠原工区の実施が当年度途中で決定されたため、同年7月より調査運営体制の検討作業に入った。その結果、同年11月より元野地区的調査に着手することとなった。しかし、事業者側の都合から実際に調査に着手できる状況となったのは翌月のことであり、加えて水田及び畠地の作付の都合から平成11年2月中旬には現地を引き渡してほしいとの地元土地改良区からの要望があったため、調査の中でも時間を要する写真撮影や測量作業などを全て関連民間企業による支援業務により補うことで、結果的に迅速化を図ることとなった。平成10年10月28日付けで宮崎県中部農林振興局と発掘調査の業務委託契約を締結し、平成11年2月16日に現地の作業を完了した。調査面積は、約11,500m<sup>2</sup>に至った。

## 第2節 遺跡の位置と歴史的環境

畠田遺跡の所在する楠原地区は、鰐塚渓谷を源流とする清武川支流の別府田野川左岸と山下川右岸に挟まれた河岸段丘上にあり、恵まれた水源を有することから耕作地の人半で水田が営まれている。今年度調査した部分は、この水田地帯のほぼ中央部に位置する。別府田野川の流域には黒草第1遺跡、本野原遺跡（旧称：黒草遺跡）、高野原遺跡などのたいへん密度の濃い遺跡が分布している。本野原遺跡は昭和46年の宮崎大学史学研究部考古学班による調査で市来式土器・縄文式土器が出土したほか、平成6年度に県文化課が実施した試掘調査でも縄文時代早期と後・晚期の遺構遺物が確認された。また、聞き取りのみではあるが地下式横穴墓も所在するといわれている。高野原遺跡は県営農地保全整備事業元野地区の中で平成4年度（地中レーダー探査のみ）5～7年度に田野町教育委員会による発掘調査が実施された。各年度とともに縄文時代早期の遺構遺物が出土したほか、平成6年度の調査では縄文時代後晩期かとみられる掘立柱建物（現在整理中）と竪穴住居、弥生時代の日向型間仕切りを含む竪穴住居、地下式横穴墓、中世の掘立柱建物などが検出された。



第2図 調査区位置図

## 第Ⅱ章 畑田遺跡の調査概要

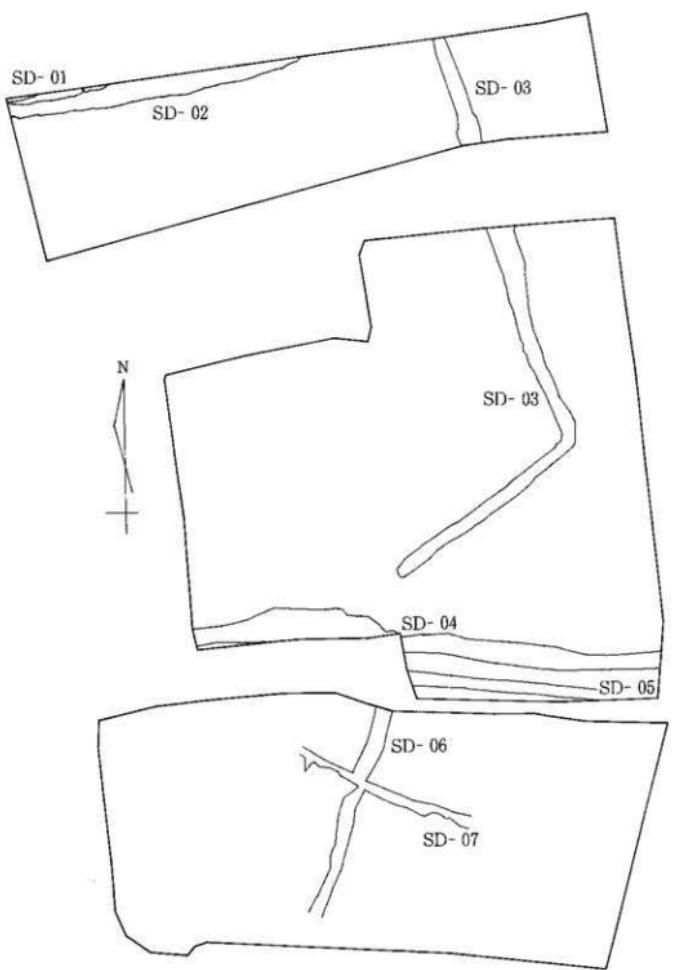
### 第1節 調査の方法と結果の概要

本遺跡の調査対象区域には大小の水田区画が形成されており、そのほぼ中央部を南北の農道で寸断されているため、表土掘削等の便宜上からA・B・Cの3地区を設定して調査を実施した。

各層の残存状況は調査区の旧地形と開墾による削平の度合から様々であったが、概ね上層から耕作土、床土、旧耕作土、旧開墾による盛土、黒色土（時期不明）、御池軽石混入土、赤ホヤ二次堆積土、赤ホヤ堆積、灰褐色土、礫泥り粘質土となる。但し、古環境研究所より提出されたテフラ等の分析データと現地作成土層図との照合作業を残している。

試掘調査の段階で赤ホヤ堆積以前の遺物包含層は確認されなかつたため、主に縄文時代前期以降の遺構検出を目的として、御池ボラ混入層から赤ホヤ堆積層上面の間で精査をおこなった。本遺跡には縄文時代から近世・近代に至るまでの複数時期の遺構や遺物が混在しており、特に遺構の時期推定及びグルーピング作業のためには室内調査に十分な時間を要するため、ここでは敢て詳細については触れない。各調査区においてはピット群、土坑、溝などを検出したほか平安時代の土器集中地点も見られた。A区のピット群は概ね近世・近代のものと思われるが、掘立柱建物等の明確な配列は無かった。B区のピット群は大半が掘立柱建物に伴うもので、大半は近世・近代のものである。現地調査の段階で既に32棟を確認した。また、B区北東で検出されたピット群の一部は縄文時代晚期の竪穴住居に伴う柱穴の可能性があり、円状に巡る部分が2か所見られる。覆土中より同時代の土器片が出土している。但し、竪穴状の掘り込みは確認できなかつた。この北西にあるSC-06からも同時代の土器片（2）が出土している。他の土坑については、大半が近世・近代のものであろう。C区の遺構は、A区と同じく掘立柱建物等の明確な配列は無かつたが、縄文時代晚期の土坑を1基確認した。溝は調査区全域にわたって検出し、いずれも明確な埋没時期や用途を把握できなかつた。出土遺物や覆土などから若干古い要素が感じられるSD-03を除き、大半が近世・近代のものであろう。以上の結果から、近世から近代の居住域はB区にはば限定され、他は水田等の耕作地であったものと推定される。当地の歴史を記録保存する意味で、楠原地区及びその周辺における聞き取り調査を早急に実施したい。

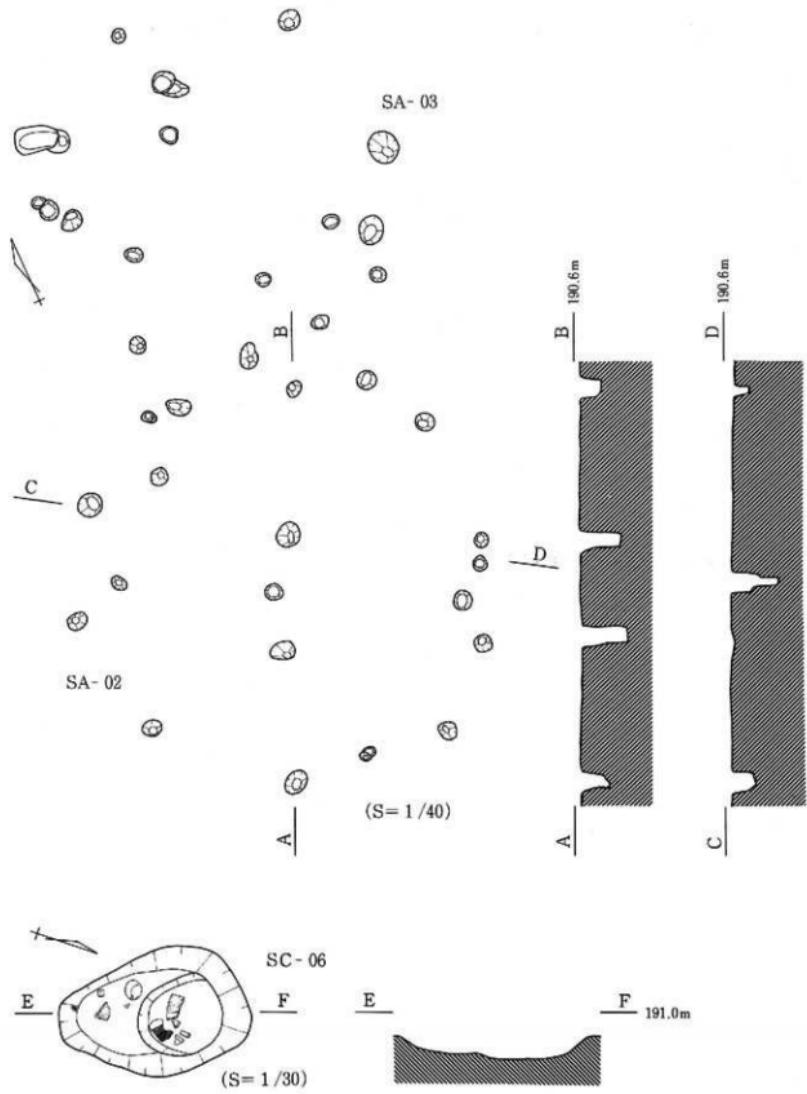
前記したように、縄文時代晚期の土器と石器、弥生時代の土器と石器、平安時代の土師器、中世の陶磁器、近世・近代の陶磁器と縄文時代早期とみられる土器片が出土した。縄文時代晚期の（2）は当地域において未だ資料数の少ない浅鉢形の組織痕土器であり、特記すべきものである。弥生時代の遺物として明確に認識できたのは現段階で磨製の石鎌一点のみである。平安時代の土師器についてはA区とB区の一部に集中して出土しており、居住域との関連が考えられる。中世の陶磁器はごく少量ではあるが貿易陶磁も数点見られる。近世・近代の遺物は大半が肥前地方と薩摩地方の陶磁器である。その他に時期は不明であるが鉄滓や鉄製品と石製品なども出土している。



第3図 A区遺構分布図（概略図）S=1/400

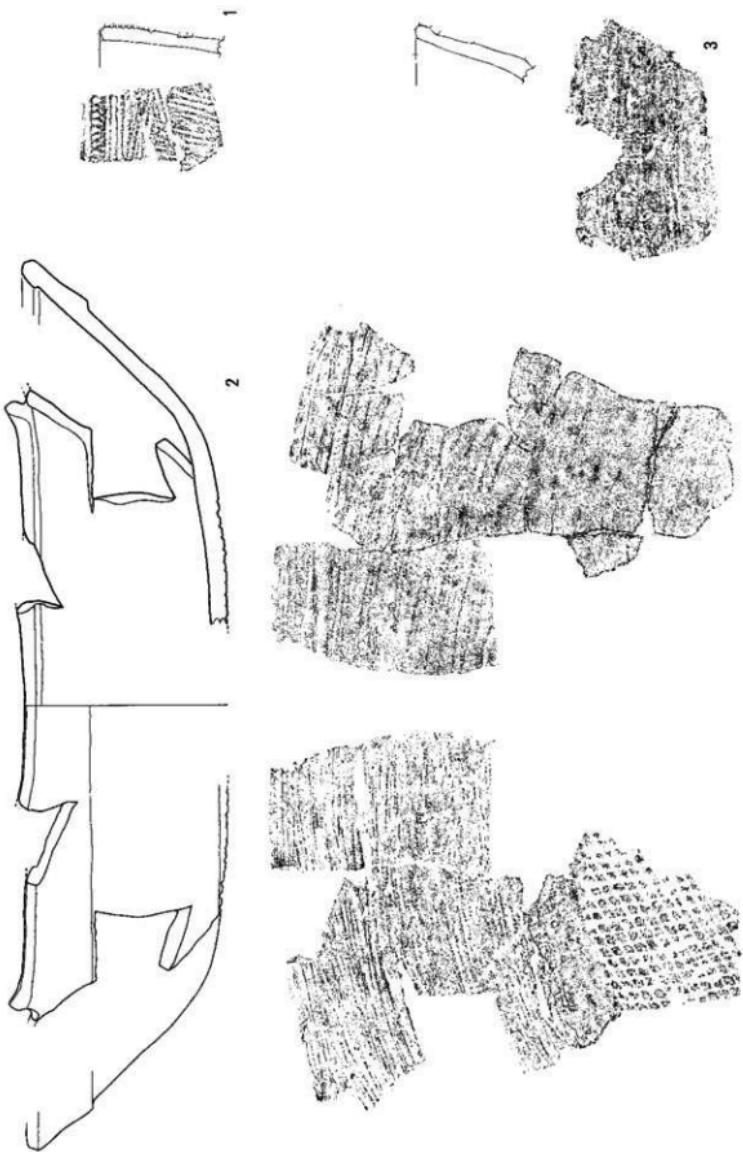


第4図 B区遺構分布図(概略図) S=1/400



第5図 遺構実測図 (SA-03・04)(SC-06)

第6図 出土遺物実測図 S=1/3





畑田遺跡調査着手前全景



烟田遺跡調査状況全景



A区調査状況全景



SD-03 検出状況（南から）



SC-07 検出状況



SA-02 検出状況（北から）



SC-06 検出状況



SB-03 検出状況（西から）



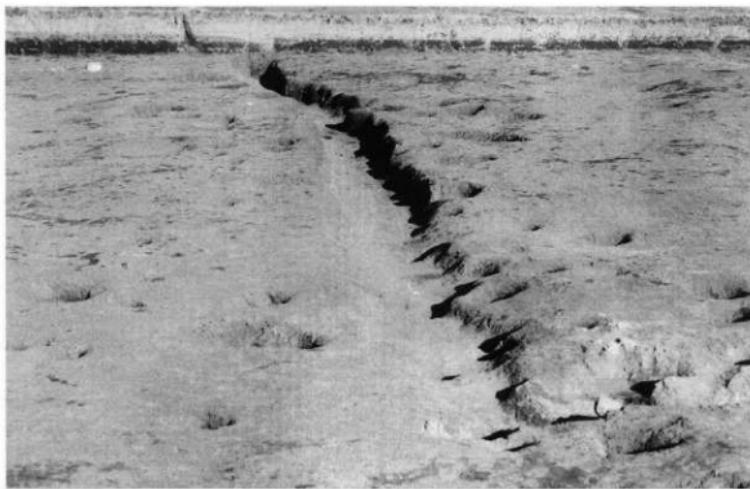
SB-15・16 検出状況（北から）



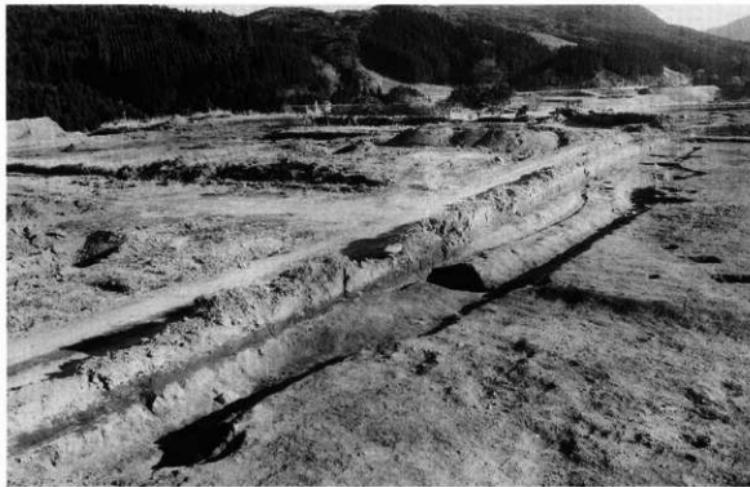
SB-20 検出状況（西から）



SB-11・17 検出状況（北から）



SD-03 検出状況（西から）



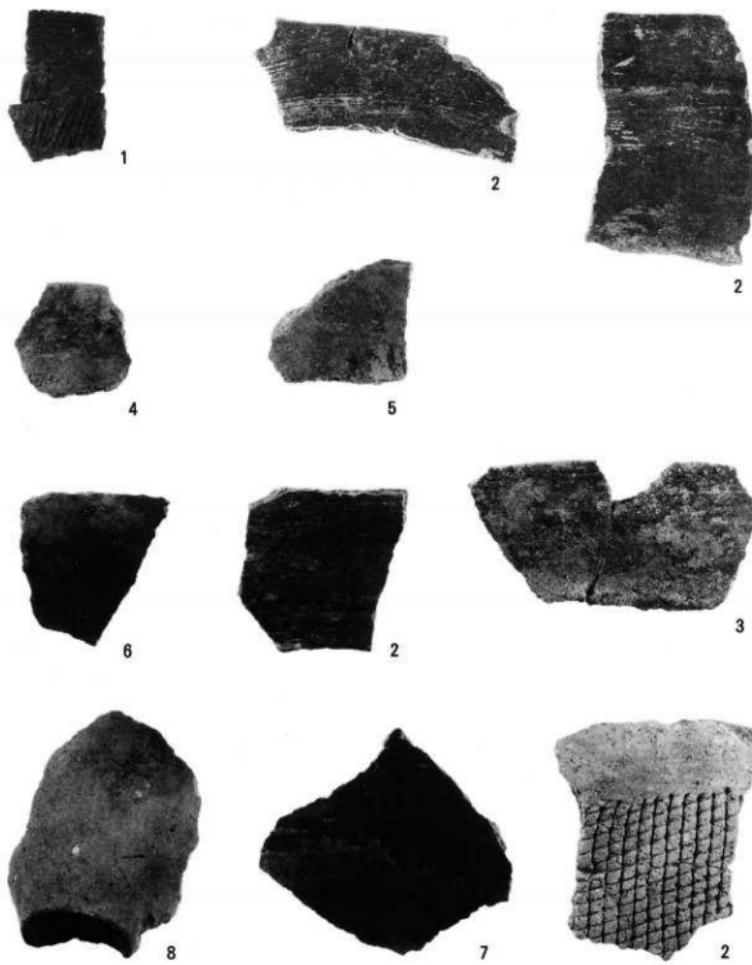
SD-21・22 検出状況（北西から）



C区の調査状況（西から）

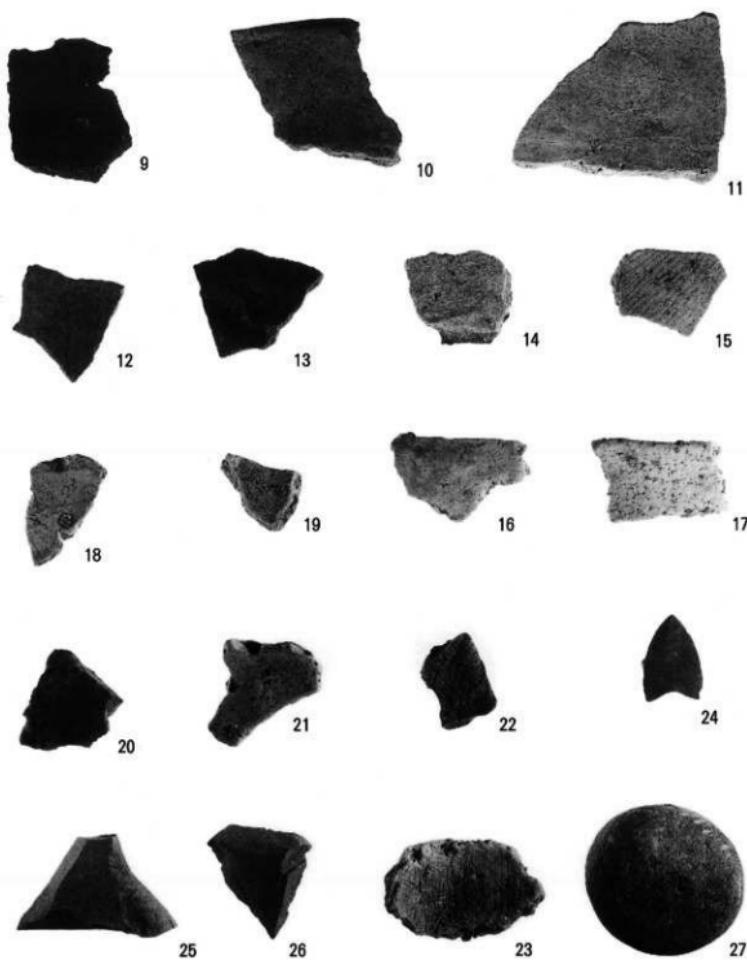


C区の調査状況（東から）



(1)は縄文時代早期 ( 2 ~ 8 ) は縄文時代晩期の土器  
(2)は全て同一個体

B区の出土遺物



(9~15)は縄文時代晚期の土器、(16・17)は平安時代の壺、(18~23)は同時代の布痕土器、  
(24)は弥生時代の磨製石鎌、(25・26)は時期不明剥片、(27)は用途不明の石製品

#### ABC区の出土遺物



B区の出土遺物（中世・近世・近代の陶磁器）

## 報告書抄録

ふりがな	はただいせき					
書名	畠田遺跡					
副書名	県営農地保全整備事業元野地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書					
卷次						
シリーズ名	田野町文化財調査報告書					
シリーズ番号	第31集					
編著者名	田野町教育委員会 文化財調査事務所 森田浩史					
編集機関	田野町教育委員会					
所在地	宮崎県宮崎郡田野町甲2818番地					
発行年月日	1999年(平成11年)3月					
ふりがな	はただいせき					
所収遺跡名	畠田遺跡					
ふりがな	みやざきけんみやざきぐんのちょう くすばる					
遺跡所在地	宮崎県宮崎郡田野町 楠原 甲 11,893番地外(畠田)					
市町村コード		遺跡番号	2010	北緯 31° 48' 32.8"	東經 131° 17' 106"	
調査期間	平成10年11月1日～平成11年2月16日					
調査面積	約11,500m <sup>2</sup>					
調査原因	平成10年度県営農地保全整備事業元野重地区					
主な時代	縄文晩期・弥生・古代・中世・近世～近代			主な遺構	土坑・溝・掘立柱建物	
主な遺物	縄文時代晩期土器・磨製石器・布痕土器・陶磁器ほか					

田野町文化財調査報告書 第31集

畠 田 遺 跡

発行年月日 1999年3月

編集・発行 田野町教育委員会

印 刷 印刷センタークロダ